様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３１４０３
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２３２３４

研究課題名（和文）治療と仕事の両立を要する虚血性心疾患壮年期男性のQOLに及ぼす要因の分析

研究課題名（英文）Analysis of factors affecting the QOL of middle-aged men with ischemic heart disease who require both treatment and work

研究代表者
北林　真美（Kitabayashi, M）

日本赤十字秋田看護大学・看護学部看護学科・講師

研究者番号：１０７５６４７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：レジリエンスは、レジリエンスが高い群、将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群、レジリエンスが低い群に分類された。相関関係は、レジリエンス合計とQOLの統合的指標である人生満足度と自尊感情は有意な正の相関があり、心理的安寧状態のSTAI状態不安と特性不安、SRQ-Dは有意な負の相関があった。要素的指標である性的な自己観 と夫婦の関係性、性役割男性性、女性性、両性具性は有意な正の相関があった。レジリエンスが高い者は、人生満足度と自尊感情が高く、夫婦の関係性と性的な自己観が安定し、男性性、女性性、両性具性が示す全ての役割認識が高く、状態不安、特性不安、SRQ-Dが低いことを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　レジリエンスは3群に分類でき、レジリエンスが高い者は、人生に満足を感じ自分が価値のある人間だと評価していた。また、うつ傾向や不安がないことが明らかになった。加えて、虚血性心疾患治療を継続する壮年期就労男性が治療の継続と就労を両立するためには、ソーシャルサポートと心臓リハビリテーションの必要性が示された。看護師は、レジリエンスの特性を捉えた個別的な介入によって、対象者がソーシャルサポートを受けやすく、かつ心臓リハビリテーションが継続しやすい方法を提案する。また、仕事と疾患管理が両立できるように援助することがQOLの促進につながる可能性が示唆された。

研究成果の概要（英文）：Resilience was categorized into a high resilience group, a low resilience group regarding optimism about the future, and a low resilience group.There was a significant positive correlation between life satisfaction and self-esteem, which are integrated indices of resilience and QOL, and a significant negative correlation between STAI state anxiety, trait anxiety, and SRQ-D.There was a significant positive correlation between the elemental indicators of sexual self-perception, marital relationship, gender roles masculinity, femininity, and androgynously.Those with high resilience have higher life satisfaction and self-esteem, stable marital relationships and sexual self-perception, higher perceptions of all roles represented by masculinity, femininity and androgynousness, state anxiety, showed low trait anxiety and SRQ-D.

研究分野：看護学

キーワード：虚血性心疾患　就労者　レジリエンス　QOL

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

虚血性心疾患の生存率は、治療方法の進歩により向上している。しかし、壮年期男性の虚血性心疾患罹患率は増加傾向で、虚血性心疾患につながる血圧や血中脂質の有所見率も増加している[1)]。虚血性心疾患は再発による死亡率が高く、再発や死亡は社会的孤立や孤独感、うつ病が有意に関連する[2)]。よって、虚血性心疾患を患った就労者に対する治療と仕事の両立支援の重要性は高い。しかし、虚血性心疾患を抱える労働者への整備は遅れ、がん、難病などの就労支援制度がなく[3)]、身体障害手帳、介護保険の対象からも除外されていることから、治療と仕事の両立には困難を抱えている。

レジリエンスは、逆境に耐え、試練を克服し、感情的・認知的・社会的に健康な精神活動を維持するのに不可決な心理特性である。本研究では、虚血性心疾患壮年期男性が虚血性心疾患の罹患という逆境に耐え、治療と仕事の両立という試練を克服し、社会生活を維持している背景には、対象者が備えるレジリエンスが影響していると仮定する。そして、レジリエンスの高低は QOL に関連する可能性があると考えた。

２．研究の目的

虚血性心疾患治療を継続する壮年期就労男性のレジリエンスと QOL の特性、およびレジリエンスと QOL の関連を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

１)対象者

全国の日本循環器学会指定循環器専門医研修施設・研修機関関連施設に通院している 30～64 歳の男性とした。

２）調査方法

郵送による自記式質問紙調査とした。調査尺度は、QOL の指標には、統合的指標(自尊感情、人生満足度、STAI：状態不安・特性不安、SRQ-D)と要素的指標(病気をもちながらの生活管理、sexuality：夫婦の関係性、性役割男性性・女性性・両性具性、性的な自己観)から成る『病気を持ちながら生活する男性のクオリティ・オブ・ライフに関する質問紙』[4)5)]、レジリエンスは 4 下位尺度(I am、I have、I can、Iwill)から成る『レジリエンス尺度』[6)]を用いた。

３)分析方法

レジリエンスはクラスター分析を行い、特性によって 3 群に分類した。レジリエンス 3 群と QOL の関連は、Kruskal-Wallis 検定を用い、群間の比較は Bonferroni 法による多重比較を行った。レジリエンスと QOL の関連は、Spearman の順位相関係数を求めた。

４．研究成果

１）対象者の概要

840 施設に調査依頼を行い、23 施設 (2.7%) から承諾を得た。309 人に質問紙を配布し、115 (35.3%) の回答を得た。有効回答数は、104 (有効回答率 90.4%) だった。

２）レジリエンスの特性による対象者の分類

クラスター分析により 4 つのクラスターに分類した(表 1)。その後、各クラスターのレジリエンスの合計と下位尺度の中央値を比較し、クラスター2 をレジリエンスが高い群 (18.3%)、クラスター3 を将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群 (64.4%)、クラスター1 と 4 をレジリエンスが低い群 (17.3%) の 3 群に分類した(図 1)。

表1 各クラスターのレジリエンスの合計と下位尺度の中央値の比較

合計と下位尺度(得点範囲)	全体	1(*n*=16)	2(*n*=19)	3(*n*=67)	4(*n*=2)
合計 (29-145)	102.5	83.6	108.0	108.6	40.0
I am (1-40)	27.0	18.2	27.4	32.4	15.5
I have (1-35)	25.0	19.6	26.7	26.7	7.0
I can (1-35)	26.0	21.1	26.6	26.8	9.0
I will (1-35)	26.0	24.8	27.4	22.7	8.5

レジリエンス合計の得点範囲 29-145
I am の得点範囲 1-40
I have の得点範囲 1-35
I canの得点範囲 1-35
I will の得点範囲 1-35

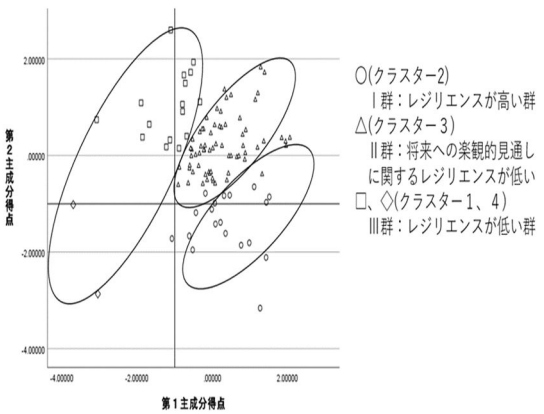

図１　クラスター分析

３）QOL と個人変数の関連からみた心臓リハビリテーションの有用性

個人変数として設定した『外来での運動リハビリテーションの有無』は、QOL の指標である病気を持ちながらの生活管理（ES = .23, p =.02)と夫婦の関係性（ES = .23, p =.02）で有意差がみられた。つまり、外来での運動リハビリテーションをしている者はしていない者と比較して、病気を持ちながらの生活管理ができ、夫婦の関係性が安定していることを示した。

心臓リハビリテーションは、患者教育やカウンセリング、使用薬剤状況をもとに処方され、うつ傾向や不安の軽減、運動耐容能と冠危険因子の改善、心疾患の再発率や死亡率を低下させる 9) 71)。そのため、心臓リハビリテーションを実施することは、生活管理や適度な性生活、対人関係における精神的安定、社会生活で求められる役割の遂行に良好な影響を与えている可能性が考えられた。

４）レジリエンスと QOL の関連

４－１）レジリエンス 3 群と QOL の関連からみたレジリエンス各群の特徴

レジリエンス 3 群と QOL 統合的指標の関連は、自尊感情（p =.03)、人生満足度（p = <.001)、心理的安寧状態の STAI 特性不安（p =.03)、SRQ-D (p =.03) に有意差がみられた。

自尊感情は、レジリエンスが高い群と将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群 (p =.03)、レジリエンスが高い群とレジリエンスが低い群（p =.003）に有意差がみられた。人生満足度は、レジリエンスが高い群と将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群（p = < .001)、レジリエンスが高い群とレジリエンスが低い群（p = .002）に有意差がみられた。STAI 状態不安は、3 群間に有意差は見られなかった。特性不安は、レジリエンスが高い群と将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群（p =.004)、レジリエンスが高い群とレジリエンスが低い群（p = < .001）に有意差がみられた。SRQ-D は、レジリエンスが高い群とレジリエンスが低い群に有意差がみられた（p =.01)。

レジリエンス 3 群と QOL の要素的指標の関連は、夫婦の関係性（p = < .001)、男性性（p = < .001)、女性性（p =.02）に有意差がみられた。

夫婦の関係性は、レジリエンスが高い群と将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群（p = <.001)、レジリエンスが高い群とレジリエンス低い群（p =.001）に有意差がみられた。男性性は、レジリエンスが高い群と将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群（p = < .001)、レジリエンスが高い群とレジリエンスが低い群（p = < .001）に有意差がみられた。女性性は、将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群とレジリエンスが低い群に有意差がみられた（p =.02)。

以上より、レジリエンス各群の特徴は次のようにまとめられる。レジリエンスが高い群は他群に比べ、自尊感情、人生満足度が高く、夫婦の関係性が安定している。また、レジリエンスが低い群に比べ、特性不安とうつ傾向が低い。将来への楽観的見通しに関するレジリエンスが低い群は、レジリエンスが高い群に比べ、自尊感情と人生満足度が低く、夫婦の関係性は安定していないが、男性性の役割認識が高い。また、レジリエンスが低い群と比べ、女性性の役割認識が高い。レジリエンスが低い群は、レジリエンスが高い群よりも自尊感情と人生満足度が低く、特性不安と SRQ-D は高い。また、レジリエンスが高い群と比べ夫婦の関係性と男性性の役割認識が低く、将来への楽観的見通しに関するレジリエンス群よりも女性性の役割認識が低い。

対象者が虚血性心疾患の治療を継続するためには、治療と両立するための制度の活用や仕事の調整を行う必要がある。これには、家族や同僚からのサポートや自己を肯定的に捉えることが求められる。レジリエンスが高い群が、夫婦の関係性や性役割が安定していたことは、これらの要因が備わっていることが考えられる。

４－２）レジリエンスと QOL の相関関係

レジリエンスの合計スコアと QOL の相関関係は、統合的指標である人生満足度 (rs = .57 ; p < .01)と自尊感情 (rs = .55 ; p < .01) は有意な正の相関があり、心理的安寧状態の STAI 状態不安 (rs = -.48 ; p < .01) と STAI 特性不安（rs = -.64 ; p < .01)、SRQ-D (rs= -.34 ; p < .05) は有意な負の相関があった。要素的指標である性的な自己観（rs = .29 ; p < .01）と夫婦の関係性（rs = .40 ; p < .01)、および男性性（rs = .64 ; p < .01)、女性性（rs = .02 ; p < .05)、両性具性（rs = .51 ; < .01) は有意な正の相関があった。以上より、レジリエンスが高い者は、人生満足度と自尊感情が高く、夫婦の関係性と性的な自己観が安定し、男性性、女性性、両性具性が示す全ての役割認識が高く、状態不安、特性不安、SRQ-D が低いことを示した。

I am は、人生満足度（rs = .54 ; p < .01）と自尊感情（rs = .55 ; p < .01）は有意な正の相関がみられた。心理的安寧状態の STAI 状態不安（rs = -.43 ; p < .01）と STAI 特性不安（rs = -.59 ; p < .01)、SRQ-D (rs = -.25 ; p < .05) は有意な負の相関がみられた。QOL の要素的指標である病気を持ちながらの生活管理（rs = .35 ; p < .01）と sexuality の性的な自己観（rs = .26 ; p < .01)、夫婦の関係性（rs = .41 ; p < .01)、および性役割男性性（rs = .66 ; p < .01)、性役割女性性（rs = .02 ; p < .05)、性役割両性具性（rs = .40 ; p < .01）は有意な正の相関がみられた。

I have は、人生満足度（rs = .51 ; p < .01）と自尊感情（rs = .40 ; p < .01）は有意な正の相関がみられた。心理的安寧状態の STAI 状態不安（rs = -.39 ; p < .01）と STAI 特性不安（rs= -.54 ; p < .01)、SRQ-D (rs= -.33 ; p < .01) は有意な負の相関がみられた。病気を持ちながらの生活管理（rs = .36 ; p < .01）と sexuality の夫婦の関係性（rs = .36 ; p < .01)、および男性性（rs = .39 ; p < .01)、女性性

(rs = .24 ; p < .05)、両性具性 (rs = .36 ; p < .01) で、有意な正の相関がみられた。

I can は、人生満足度 (rs = .53 ; p < .0.1) と自尊感情 (rs = .47 ; p < .01) は有意な正の相関がみられた。心理的安寧の STAI 状態不安 (rs = -.36 ; p < .01) と STAI 特性不安 (rs = -.56 ; p < .01)、SRQ-D (rs = -.28 ; p < .01) は有意な負の相関がみられた。QOL の要素的指標である病気を持ちながらの生活管理 (rs = .26 ; p < .01)、sexuality の性的な自己観 (rs = .20 ; p < .05)、夫婦の関係性 (rs = .34 ; p < .01)、および男性性 (rs = .63 ; p < .01)、両性具性 (rs = .49 ; p < .01) は有意な正の相関がみられた。

I will は、人生満足度 (rs =.30 ; p < .01) と自尊感情 (rs =.40 ; p < .01) が有意な正の相関がみられた。心理的安寧の STAI 状態不安 (rs = -.50 ; p < .01) と STAI 特性不安 (rs = -.45 ; p < .01)、および SRQ-D (rs = -.30 ; p < .01) は有意な負の相関がみられた。QOL の要素的指標である sexuality の性的な自己観 (rs = .28 ; p < .01) と夫婦の関係性 (rs =.20 ; p < .05)、および男性性 (rs =.42 ; p < .01)、女性性 (rs =.38 ; p < .01)、両性具性 (rs =.48 ; p < .01) は有意な正の相関がみられた。

本邦の中高年のレジリエンスを規定する要因は、自己や生活の変化を受け入れる受容、現状に対するポジティブな認知、状況を好転させるための自己制御力の 3 つが起因する [7]。そのうち、受容がもっとも強く関連している [7]。レジリエンス下位尺度 I am は、本当の自分を知る力、自分自身の良いところも悪いところ含めて自分を受け入れていく力である [6]。よって、I am が QOL に影響していたことは、先行研究を支持すると考えられる。問題解決力を測定する I can や他者との信頼関係やネットワークを測定する I have、将来に向けて伸びていく力を測定する I will の影響が一部にとどまったことは、虚血性心疾患に必要な治療の継続と就労の両立を受容することが前提であり、I am に包含された可能性がある。よって、虚血性心疾患治療を継続する壮年期就労男性のレジリエンスと QOL の関連を捉える場合、受容の程度を考慮することが必要であると考えられる。

引用文献

1) 厚生労働統計協会:厚生の指針増刊 国民衛生の動向 2018/2019.65(9),東京,2019;62,402

2) Cui.Y, Hao K, Takahashi J, et al.: Agespecific Trends in the Incidence and In-Hospital Mortality Acute Myocardial Infarction Over 30 Years in Japan-Report From the Miyagi AMI Registry Study 2017; 81:520-528

3)西村真人,根来政徳,岡元進一,夏梅隆至,平林伸治:心疾患入院患者の復職状況と患者特性.日本職業・災害医学会会誌 2018;65(3):118-124

4) 黒田裕子:虚血性心疾患を持ちながら生活する男性のクオリティ・オブ・ライフに関する記述的研究-日常生活の管理とセクシュアリティからの分析‐.聖路加看護大学大学院博士課程論文

5) 黒田裕子:黒田裕子の看護研究 step by step.(5),医学書院,東京,2012;168-170

6) 森敏昭,清水益治,石田潤他:大学生の自己教育力とレジリエンスの関係,学校教育実践学研究 2002;8:179-187

7) 堀田千絵,八田武志,杉浦ミドリ他:中高年におけるレジリエンス規定因－災害からの回復エピソードによる検討―人間環境学研究 2012;10(2):123-129

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 北林真美
２．発表標題 虚血性心疾患治療を継続する壮年期就労男性のレジリエンスの特性
３．学会等名 第23回日本赤十字看護学会
４．発表年 2022年

１．発表者名 北林真美
２．発表標題 虚血性心疾患治療を継続する壮年期就労男性の生活管理に関する調査
３．学会等名 第48回日本看護研究学会学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関